

沖縄気象台

主な採用区分

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木区分の主な業務

01



01 気象庁の業務は、自然現象を常時監視すると共に、気象、地震、津波、火山活動に関する情報を発表している。それらの業務は幅広く、また異なる業務であってもそれぞれ少なからず関連があるため、採用区分にこだわらず様々な業務に携わることができる。

02



02 沖縄気象台では気象状況を24時間体制で監視し、観測データや数値予報をもとに気象災害の防止・軽減、二次災害防止を目的とした防災気象情報や、日々の生活を支える天気予報などを発表している。

03



03 多くの職員で情報を共有しながら、毎日の予報業務を行っている。数値予報による予測精度は年々進歩しているが、最後に決断を下すのは長年経験を積んだ予報官である。

04 たえず変化している大気の状態を知るために、沖縄気象台の敷地内には「露場」と呼ばれる地上観測地がある。露場では地表面付近の気圧、風向・風速、気温、湿度、降水量及び日照時間、雲、大気現象(雨、雷、霧等)を観測している。そのデータは、天気予報、防災気象情報、農業、漁業、交通の安全等あらゆる分野で利用されている。

04





05 災害発生時において、今後の防災気象情報の改善に資するよう、現象の実態解明のため職員【気象庁 機動調査班(JMA-MOT)】を派遣し、現地調査を行っている。写真は突風調査の様子。突風により木が折れている。地域住民からの聞き込みなども行い、各種情報を収集・共有・整理し、調査結果について、迅速に地元自治体に報告すると共に、報道にも公表している。



06 沖縄県内各地には、観測データを収集するため様々な観測地がある。写真は地震観測局である。多様な地震動(揺れの大小、周期の長短など)を観測するために、各種の地震計を設置している。

その他にも潮位観測施設などがあり、潮位をリアルタイムで観測し、潮位や津波の監視に利用している。

先輩職員に聞く仕事の魅力！

石垣島地方気象台
防災指導係技術主任

ひらなか ゆういち
平仲 裕一

2014年 那覇航空測候所 観測課 採用
2015年 南大東島地方気象台
2017年 沖縄気象台 予報課
2021年 石垣島地方気象台 現職



私は大学・大学院で物理学を専攻し、極低温の物性を研究していました。研究は気象とは無関係でしたが、自然科学が好きで、物理学の知識を生かすことができる気象庁を志望しました。現在は、防災業務に従事しており、地域防災のための広報活動、台風説明会、地震火山業務、石垣島と周辺離島に設置された観測機器の点検など様々な業務を行っています。気象業務は、社会に貢献できるやりがいのある仕事です。気象が専門の人はもちろん、私のように専門外でも、入庁後の研修を通して知識や技術を身に付けることができますので、興味のある人は気象庁で働いてみませんか？

■お問い合わせ先

沖縄気象台総務課人事係

〒900-8517 那覇市樋川1-15-15 那覇第一地方合同庁舎 西棟5階

TEL：098-833-4281

<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/>

